

地域と学校の 協働通信

令和5年11月30日
武蔵野市教育委員会
指導課教育推進室
第14号

特集

- モデル校第5回協議会など
- モデル校検証アンケート実施
- 「開かれた学校づくり協議会」代表者会

学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会(モデル校)の報告 年度の後半に入り、具体的な活動がすすんでいます



第一中学校 第5回協議会

第6回は、12月8日(金)
午後4時から(予定)

今回は、以前から委員さんたちで取り組んでみようと声の上がっていた、漢字検定の日に合わせて協議会を開き、協議を行いつつ漢字検定の実際の様子を見学しました。

また、11月には部活動の見回りを実施しました。学校と調整し、水泳部、美術部、テニス部、卓球部、など、実際にその活動に触れることで「生徒は男女の仲が良く、楽しそうだった」などの部活動の様子を実感するとともに、今後継続的に見守りを行う上での課題なども明らかになってきました。さらに、学校から依頼されて廊下に掲示物を貼り付ける作業も、保護者有志のご協力を得て実施しました。



漢検の実際の様子を見学しました。生徒は、開始直前まで参考書を開くなど真剣に取り組んでいました。



境南小学校 第5回協議会

第6回は、1月15日(月)
午後6時30分から(予定)

はじめに、学校が11月に保護者・地域・児童に向けて実施する「学校評価アンケート」について、開かれた学校づくり協議会についての項目を入れてはどうかと校長先生から提案がありました。協議会の認知度や、アンケート項目と教育目標との整合性などの質疑の後、追加するアンケート項目は「学校と開かれた学校づくり協議会は、連携して、学校、家庭、地域と協働した教育をおこなっている」とすることになりました。

その後、引き続き議論している『学校を支援する「人材バンクリスト」の作成』にあたり、イメージの共有を図りました。境南小の特色である「境南タイム」(総合的な学習の時間)のように、子どもたちの主体性を発揮した学週活動のヒントになるような、また、先生たちが必要に応じて気兼ねなくリストを活用できるような緩やかなものから始めようという意見が出ていました。



学校評価アンケートについて説明する校長先生と、項目を検討する委員の皆さんの様子

学校運営協議会機能を有する開かれた学校づくり協議会(モデル校)の 検証アンケートを実施しました

モデル校の効果検証を行い、結果を各学校・家庭・地域団体や開かれた学校づくり協議会にフィードバックして情報共有を図ること、また、生じた課題等があればモデル校の運営を改善することを目的として、11月中にアンケート調査を実施しました。

ご協力いただきました、開かれた学校づくり協議会委員、児童・生徒、保護者、教職員、地域団体の皆様、ありがとうございました。



第1回 開かれた学校づくり協議会代表者会の報告

第1回開かれた学校づくり協議会代表者会を、10月26日(木)市役所4階会議室で開催しました。

代表者会は、各校の開かれた学校づくり協議会代表者、教育長、教育委員及び教育委員会の部課長が集まり、そのときどきの教育と地域に関わるテーマについて意見交換を行っています。年に2回開催しています。今回のテーマは、「地域とともに考える教員の働き方改革～先生いきいきプロジェクト2.0の今～」です。

最初に、荒井友香指導課長から学校の働き方改革の取組状況と今後の方向性についてプレゼンテーションがありました。ここでは、

- ① 在校時間の適切な把握と意識改革（タイムレコーダー活用、学校閉庁日等）
- ② 業務改善の推進（校務支援システムの活用、諸会議・調査の見直し）
- ③ 教員を支える人員体制の確保（市講師、副校長等事務補助、部活動指導員等の配置）
- ④ ワーク・ライフ・バランス実現に向けた環境整備（自己申告書の目標設定、保護者等へ広報）
- ⑤ 教員の主体的な研鑽の奨励（都認定団体や民間団体の研究発表会等参加費補助） などといった取組が紹介されました。

その後、会の後半は、5～6人グループに分かれて率直な感想や今後どういった取組が考えられるか、協議を行いました。各グループには教育長、教育委員、部課長や指導主事も入りました。

以下に意見の一部を紹介します。

【先生いきいきプロジェクトに対して】

- 先生いきいきプロジェクトの取組によって、教員の帰宅時刻だけでなく、学校での教員の雰囲気も改善されたと思う。教員には、自然体で過ごして本音を出して欲しい。
- 先生いきいきプロジェクトは、子どもから見て「先生たちがいきいきとしている」ことがゴール。その姿が、子どもたちの将来へとつながる。
- 先生いきいきプロジェクトについて、「民間企業も大変なのに先生だけ対策するのか」と考えていたが、子どものためと考え、本プロジェクトの内容について納得した。

【地域の関わりについて】

- 地域の間は先生の代わりにはなれないが、活動の見守りであればできるかもしれない。また、保護者などから学校への過度な要求があった場合に、地域が間に入って対応する、教員の業務の周知に地域が協力するなども考えられる。
- 地域のサポートとして、子どもに学びの場や遊びの場の提供を考えていく必要があるように感じる。
- 最近では学校が地域を受け入れるようになったと思っているが、地域で担える人がいるかどうか心配だ。
- 地域協力者について、保護者世代は共働きが多い。高齢者も元気なうちは働いている人が多い。地域の取組や学校の取組については、その中で協力している。学校が大変なことも分かるが、そうしたお互いのことを分かたうえて、リスペクトし合って関係を深めたい。

【学校・教育委員会に対して】

- 服装や髪形、あいさつ、電話や来客対応など、社会人と言えない教員も中にはいる。心の余裕や時間的な余裕のなさ、様々な場面の態度に現れているのではないかと。
- 教育委員会が教員を集めて行う会議は、基本はオンラインにしてはどうか。

